

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第4回豊中市市有施設有効活用委員会		
開催日時	平成27年(2015年)1月28日(水) 18時30分～20時30分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	資産活用部 施設活用推進室	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	○市有施設有効活用委員会委員4名 伊丹康二委員、佐野こずえ委員、廣瀬史朗委員、吉野忠男委員 (五十音順)	
	事務局	○資産活用部 施設活用推進室 福田部長、甫立次長、國司主幹、牛尾副主幹、芦田、次郎坊 ○財務部 財政室 田上室長	
	その他		
議題	<p>1. 「豊中市における市有施設の戦略的配置について(答申の骨子案)」の検討</p> <p>2. その他</p>		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

審議等の概要(主な発言要旨)

案 件 1

豊中市における市有施設の戦略的配置について(答申の骨子案)」の検討

- ・資料 「豊中市における市有施設の戦略的配置について」 答申の骨子(案)
- ・参考資料 豊中市における市有施設の戦略的配置について(答申の中間取りまとめ)

事務局より資料説明

- (委員) 政策から施設への流れの図について、「施設整備の時代」では「行政サービス」という言葉を、「これからの時代」の図では、従来との違いを際立たせるために、あえて「機能」に変えている。同様に、「配置」を「分布」、「施設」を「空間」としてはどうか。
- (委員長) 「行政サービス」と「機能」を同義としてしまうと、従前の行政サービスをそのまま機能に置き替えているという意味に捉えられてしまうのではないか。われわれは新たな視点として、「機能」に着目しているのだから、あえて「行政サービス」ではなく「機能」としているのではないか。
- (委員) 逆に、「配置」「施設」はそのままなので、整合性が取れない。
- (事務局) 施設整備の時代と今後のあり方の違いを際立たせるため、あえて「機能」としたが、「配置」「施設」がそのままであると整合性が取れないかもしれない。
- (委員) 「分布」「空間」という表現は削除してしまった方がわかりやすいのではないか。また、行政サービスという言葉を使うなら、1頁目にある「市民サービス」を「行政サービス」に統一した方が良いのではないか。
- (委員長) 「施設」という言葉は多義的に捉えられるので、補足が必要ではないか。「施設」という言葉だけだと、例えば「図書館」等の施設でイメージしてしまう。「空間」ととらえると、多機能的に利用の可能性を感じる。「空間」を消してしまうと、そのニュアンスが消えてしまう。
- (委員) 「空間」という言葉には、「施設」という箱を丸ごと再編というよりは、施設の中の部屋単位や空間単位での再編の可能性があるという問題意識がある。ただ、「空間」という言葉についての説明が行き届いていない。注釈で書いておくのは良いと思う。
- (事務局) 機能に着目した新たな視点を強調するために、「空間」という言葉は残したいので、注釈で残しておけば良いと思う。
- (委員長) 注釈というより定義である。この言葉は、今回はこういった意味で使っている、という一覧が必要かもしれない。
- (委員) 従来とは違った考えで新しい言葉を使うことで、考え方が変わっているということが明らかになる反面、唐突に言葉が出ている印象も受けるかもしれない。
- (委員長) 人によって見方が変わってしまわないように定義づけすることは必要である。
- (委員) 別紙 6 にも「分散型」や「段階構成型」など聞きなれない言葉が出てきているので、こういうところも注釈が必要であると思う。
- (事務局) 「行政サービス」と「市民サービス」の違いは、「行政サービス」は事業を実現

するためのサービスで、「市民サービス」は限定せず広い意味でのサービスである。

(委員) あえて違った意味で使っているのであれば良いと思う。

(委員) 市有施設関連コストとして、施設の改修・更新費用(計画的な改修費用+施設の建て替え費用)とあるが、施設を新たに建てる費用も含むのか。建築物のライフサイクルコストという場合、解体までのコストを指すことが多い。

(事務局) 今から建てるのであれば建て替え費用は入れないが、耐用年数に達している施設と新しい施設が混在しているので、今後機能を存続していくなれば改修というより建て替えとした方がよいと判断しているからである。

(委員) そういう意図であれば了解である。

(委員) 「施設の改修・更新費用(計画的な改修費用+施設の建替え費用)」と表現しているが、「施設の改修(計画的な改修費用)+更新費用(施設の建替え費用)」とした方がわかりやすいのではないか。

また、別紙 6 機能分類別の配置パターン応用例で、廃止という例より、新たな機能が入る例にした方が、イメージしやすいのではないか。

(事務局) 重複している機能は廃止するが、重複していない機能があるので、施設全体は廃止しないという例の方が、確かに機能に着目した施設再編に沿っている。

(委員長) 資料 2 頁目で「市民 1 人あたりの財政負担としているのは、財政状況の好転等財源確保が可能な状況になれば、安易に施設総量を増やす可能性があり」とあるが、この表現だと、行政側の主導で施設をどうしていくのかを考えるようなニュアンスになる。あくまでも市民が主役で市民が施設の増にブレーキをかけられる、あるいは厳しい財政状況に対応できる、という趣旨の流れの方がいいのではないか。主役である市民が判断できる状況を作ることが大切である。その視点で言うと、5 頁目の「当答申においては、具体的な施設群を素材にした応用例の流れを示すにとどめるものとする。」という言い回しも変わってくるのではないか。市民がどうやって判断できるかに対して、我々が何を提供しているのかが明らかな文脈の方が良い。

施設の所管部局自らが委員会の答申を踏まえて議論してほしいが、その際に委員会が方向づけて、それに乗っかればよいととらえられると困る。そうではなくて、施設の所管部局が市民の動きや意見を一番よくわかっているのだから、我々の考えに合わせて検討できるかということである。委員会の意見をふまえた最終決定は市民が行うという流れにしてほしい。こうすべきだという論調ではなく、検討の素材として委員会の考え方をふまえる、という流れで進めてほしい。

5 頁の「例えば、集合住宅に付属する公園を、園庭を有しない民間保育所が利用するなど、行政と民間が融通しあう…」とあるが、ここまで踏み込むのか。

(事務局) 「公立の保育所を廃止し、民間保育所を活用してもらうときに、もし園庭が狭ければ近くの公園を活用するといったことにすれば、スムーズに行くのではないか」との委員の意見を参考にした。

(委員) 具体的に書きすぎていると思う。市が行っていた機能を、民間に委託したとしても、丸投げするのではなく、関係性を保っておいた方が良いという意味である。

(事務局) 具体的にやりすぎているので、表現は工夫する。

(委員) 5 頁「当該施設群は地元密着型施設なので…」とあるが、それが前提になってしまう

うと、施設を機能に分解しそれぞれの機能単位で利用圏や再配置を考えるという流れとは乖離してしまう。地元密着型施設と言いだしてしまうと、すべての施設が地元密着型になる。地元の意見を聞くのは良いが、表現はもう少し考慮が必要である。

また、「地域の団体の活動拠点、集会室、事務所、就労支援、相談、情報の収集・発信の機能など…」とあるが、集会室と事務所は機能ではない。別紙 5 でもそのような表現がある。

(事務局) 表現方法を修正する。

(委員) 「シナリオに示したフロー図を参照して当該機能を維持していくかどうかを考察する」とあるが、維持を前提にした表現である。どのように再編していくか検討していくことが大事だと思う。また、ここでは機能再編のことしか書いていないので、それに続く戦略的配置や改修計画のことまで書いた方が良い。

(事務局) いただいた意見の趣旨を踏まえ、他との整合性を考えつつ検討していきたい。

(委員長) 別紙 4「施設分類との主な機能の例(平常時の主な機能)」において、施設について機能が書かれているが、「その他」も加えた方が良いのではないかと。所管部局や市民の側でも検討してもらい余地を残した方が良いのではないかと。

また、資料 4 頁で「国の補助金を受けて建設した施設等は、用途転用によって補助金などを返還しなければならない場合がある」とあるが、こう書いてしまうと、補助金をもらっている施設は動かせないということになる。市民または所管部局から見て、補助金があっても、議論が必要な場合はある。「国の補助金を受けていても、機能の観点を重視し方向性や可能性を考えなければいけない」といった表現の方が良いのではないかと。

(委員) 資料 6 で施設の再編を図で示しているが、図では、機能分類別に再編した場合、同じ機能の場合はすべて統合や廃止になっているように見える。検討した結果統合した方が良いと判断したもののみ統合するというニュアンスを判りやすく示した方が良いのではないかと。

(事務局) 前提条件として検討と書いてあるが、もうすこしはっきりと検討した結果と判りやすく表現したい。

(委員) 資料 6 の前提条件で「核となる市有施設」という表現について、どこが核かということも検討項目である。「核となりうる市有施設」と表現した方が良いのではないかと。

(委員) 「核となる市有施設」とあるが、「核となる場所」の方が空間になり趣旨に添えるのではないかと。

(委員長) 考え方は二通りあると思う。核となり得る空間を持つ場所が必要という考え方と、既存の施設に集約するという考え方がある。

(事務局) 既存施設から入るという意味で施設の方が良いのではないかと。

(委員長) 「核となりうる既存施設」でどうか。

(事務局) 「既存のハードや延面積」や「〇〇センターが核となりうる施設と想定している」等の注釈をいれれば判りやすいのではないかと。

(委員) 市民にとってわかりやすい資料にしてほしい。議論する側は理解しているかもしれないが、資料だけ見ている側にも判りやすい資料にすべきであると思う。

(委員長) 委員会の議論の中でどこかの施設を廃止するために理由付けするような議論を

していると思われると心外である。ある程度自由な発想のもと、これからの施設のあり方を根底から見直すような考え方で作ってきたので、それが歪曲されて伝わるような形は望ましくないので、きっちり伝わるようにしたい。

(委員) 4頁の戦略的配置の進め方のフロー図について、「一定エリア、一定の機能類型を抽出した場合の施設再編の検討の流れの一例は次のとおりである」とあるが、これ以外の例はないと思われるので、言い切ってしまうても良いのではないか。また、フロー図の一番目「再編検討施設の抽出」とあるが、抽出ではなく設定の方がいいのではないか。また「抽出された機能、利用圏を考慮しても、その立地に必要か」としているが、「立地」より「場所」や「敷地」の方が適切かもしれないので議論したい。

(事務局) フロー図に汎用性があり、これ以外のケースも思いつかないので、ある程度網羅されているとすれば一例ではなく異なった表現にする。また、「立地」という表現については利便性という意味では、「場所」より「立地」の方がなじみやすいと思う。

(委員) 「地区」や「地域」はどうか。

(委員) 基本的に既存施設がありいくつかの機能があり、その機能がその場所に必要なのかということなので、「地域」ではない。

(委員) そういう意味であれば「場所」が適切ではないか。

(委員長) 「場所」のほうが統一感がある。

(事務局) 「場所」が適切であると思うので、修正したい。

(委員) 「利用圏」という言葉は、別の資料で「利用者の行動範囲」や「配置基準」といった言葉を用いているので、どちらかに統一した方が良いのではないか。

(委員) 資料のまとめの欄で「総量フレームを設定したうえで、できる限り早期に機能に着目した戦力的配置構想及びそのロードマップを策定してほしい」とあるが、どのようなものになるのか。イメージが分かりづらい。全体的な構想は馴染まないという流れが、この委員会の議論であったと思う。

(委員長) 戦略的配置構想と言うと、これまでの議論で出てきたフレーズを組み合わせただけのような形になっている。もう一度精査してもらいたい。

(委員) 最後の「他市の模倣ではない」は「豊中モデル」ということで、良い表現であると思う。

(委員) 「当市の歴史や文化的背景を踏まえた地に足のついた取組み」とあるが、歴史的な流れそのままのイメージで進めるような受け止め方をされてしまう。これまでは施設を整備する時代であったが、今後パラダイムシフトのようなことが起きる中で、歴史や文化的な背景をふまえつつ、時代に合った大胆な施設再編を進めて行って欲しい。他市の模倣ではないということは、「歴史や文化的な背景を踏まえた」、にかかってくる。他市では市長のトップダウンで総量削減しているのは歴史や文化的な背景をあまり考えずに財政第一で検討していることなので、他市の模倣はしないということはいいのだが、これからの時代に合った、大胆な施設再編を進めて行くことが望まれる。

(委員長) 本市は他市に比べて人口が増えており、評価されているという部分は色濃く出ているということは委員も共有している。このことを大事にしながら次のステージへ行ってほしい。本市の持っている良さを発揮してほしい。

以上